

群馬県館林市における外国籍住民のための 日本語教育及び社会統合促進事業

目的

- ◆ 地域に暮らす外国籍住民が、日常生活に必要な日本語を習得することで、自分および子育てへの自信を持ち、地域社会に根付き、より円滑な社会統合を実現すること。
- ◆ そのために、地域社会との繋がりを深め、相互理解の促進を図ること。

背景

- ◆ ISSJ では、日本に暮らす難民支援の一環として、数年前より群馬県館林市に集住するロヒンギャ女性の生活相談に応じ、課題解決の方法を共に考えています。
- ◆ 女性たちとの話し合いを続ける中で、地域住民として、また、母親として日本語を習得したい(しなければならない)という彼女たちの強い想いに触れ、日本語教室を主軸とした本事業の構想が生まれました。

ロヒンギャとは・・・

- ミャンマー西部ラカイン州に多く暮らすイスラム系の少数民族。ミャンマー政府からは自国の民族と認められず、国籍も与えられない。群馬県館林市には在日ロヒンギャの約 9 割が暮らす。
- 文化的・宗教的背景により、男性と同じ教室での学習を余儀なくされる日本語教室への参加は難しい。ロヒンギャの価値観の中では、女性が家の外で「自分のため」だけに時間を費やすことを良しとしない文化がある。

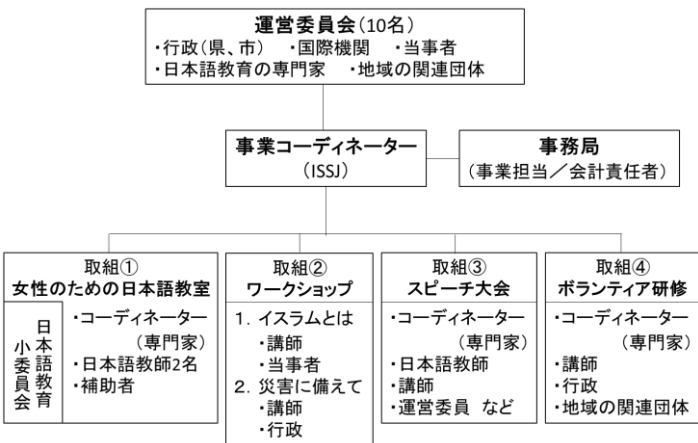
連携

- ◆ 長年にわたり難民を中心とした外国にルーツを持つ人々の支援を行っている ISSJ と関連諸団体(個人)が連携し、それぞれの視点や経験を組み合わせることで、「女性のための日本語教室」が実現。
- ◆ 日本語教育の専門家
事業の企画段階から相談を重ね、事業運営に必要な地域日本語教育の知見を共有。
- ◆ 当事者
コミュニティの中心となる女性を通して現状とニーズを把握。参加希望者との個別面談の実施。
- ◆ 行政(県／市)
地域関係者や地域資源に関する情報提供と調整。
- ◆ 地域関連団体
今後、地域の多文化共生を担う団体として協力。
- ◆ 国際機関
ロヒンギャ難民についての知見の提供。移住者の社会統合に関するアドバイス。



第一回運営委員会

実施体制



女性たちとの話し合いを重ねました。
運営委員会メンバーとしても活躍する女性が、適宜通訳を務めます。



＜日本語教育小委員会＞

- ・メンバー: コーディネーター(ISSJ、専門家)、有識者、日本語教師、事務局
- ・それぞれの視点から、より良い教室運営について意見交換
- ・教室活動の方向性やカリキュラム、指導方法について具体的に検討



個別面談を前に、緊張した面持の受講希望者。申込書の記入を手伝いました。

第一回日本語教育小委員会

注)教室が始まる前に、館林で暮らすロヒンギャの方々の現状についてISSJより情報共有させていただく場を設けました(第1回日本語教育小委員会)。

★日本語教師の声②

お恥ずかしながらこの研修のお話をいただく前、ロヒンギャ族については名前を知るのみで、仕事が決まってから少しずつ学んでいるような状態です。研修前(注)は受講者の皆さんの置かれた状況から、ひそやかな雰囲気のあるクラスになるのではないかと考えていました。しかし、実際のクラスでは大変に明るく元気で大変熱心です。

日本語を学ぶのが全く初めてという方ばかりのクラスですので、毎回のクラスでは、本当に簡単な文法と言葉を少しずつ積み重ねて学んでいます。

宿題を忘れないのはもちろんのこと、新しく学んだことを次の時までに確実に覚えてくるので、週2回のクラスではありますが、3か月前には1文字も読み書きできなかったひらがなとカタカナが、今ではクラス16人全員読み書きできるようになり、生活語彙、表現もだいぶ使えるようになりました。

授業内での質問も最初は英語ができる受講者が通訳してくれてやり取りしていましたが、今では簡単なことは「～はなんですか」などと日本語で聞かれるようになってきています。

皆さんの学習意欲と勤勉さ、互いに助け合う姿勢に、私も多くの勇気と力をいただいております。今後皆さんがどこまで伸びるのか、日本の生活になじんでくださるのか、とても楽しみです。



★学習者の声

- ・日本語が出来るようになったら、日本の人ともっとお話したいです。
 - ・日本語を勉強して、子どもの勉強を教えられるようになりたいです。
 - ・日本のニュースを見て、もっと社会について知りたいです。
- (目標記入シートより抜粋)

女性のための日本語教室

＜コンセプト＞

- ◆ 女性教師によるムスリム女性(母親)のための日本語教室
- ◆ 文化的・宗教的背景により一般的な日本語教室への参加に困難を抱える女性たちが、継続的に日本語を学べる環境づくり

特徴	・関係者は全て女性 ・当事者の意向を取り入れたスケジュール／カリキュラム ・子連れでの参加が可能な教室 ・会場は地域の公共施設(公民館)
目標	・女性たちの交流の場としても機能する ・参加者が自分自身や子育てへの自信を深める ・教室に通うことで、地域住民と顔なじみになる
課題	・短期: 教室ボランティアや保育ボランティアの確保 ・中期: 既存の日本語教室との連携 ・長期: 地域に根差した持続可能な教室運営

＜教室概要＞

期間	2017年5月15日～2018年3月中旬
頻度	週2回、2時間／1回 ・ラマダン期間中(2017年6月の1か月間)は週1回 ・日本の祝日及びイスラム暦の祝日は休講
会場	館林市内公民館(2カ所)
学習者	28名(初学者クラス:16名、初級～中級クラス:12名) ・ロヒンギャを中心に、館林市内および近隣地域に暮らすムスリム女性 ・滞在年数および日本語レベル(とりわけ口頭能力)に差があるため、2クラス開講 ・出身地や使用言語が異なるため、全員の共通言語はない ・多くが、幼児～小学校低学年の子どもを抱える母親
使用教材	「はじめまして にほん」 「社会参加のための日本語通信講座」 「かんじ だいすき」 など

★参加希望者の声

- ・ムスリム女性のための教室と聞いて、私も一緒に勉強したいと思いました。家は少し遠いですが、頑張って通いたいです。
- ・出産したばかりで通えなかったけれど、コミュニティの中で自分だけが取り残されてしまいそうで寂しいです。早く参加できるようになりたいです。

★日本語教師の声①

スタート当初から現在まで一貫して日本語習得への意欲の高さは素晴らしいものがあります。自己紹介で趣味、好きなことは「日本語の勉強」と口を揃えているのも納得の学習態度です。

ある程度話せる方々においては「書く」ことへの熱意を強く感じます。ひらがな、カタカナはもちろん「漢字」への興味は大変強いものがあり練習は欠かせません。お子様たちと漢字の勉強を一緒にしていると楽しそうに報告してくれます。また幼児のいる方は子供が学校へ行くようになったら教科書を一緒に読んだり、内容について話したいと考えているようです。

教室と一緒にくる幼子たちに目を配りながらの学習は大変なところもありますが、その大変さよりも言葉を、文字を習得していくことへの喜びを感じているお母さまたちの飛び切りの笑顔が満ちています。



★地域の声

日本語教室参加者の女性たちの顔つきが、教室開始当初に比べて生き生きと明るくなっているように思います。表情にも温かみが生まれ、「日本語教室にやって来てよかった!」という想いが伝わってきます。そんな女性たちの様子を見て、ほっと安心しているところです。

引き続き、サポートしていきたいと思っています。



公民館館長、UNHCR駐日代表らと共に

「やさしい日本語」講座

～あなたも、外国人に伝わる「やさしい日本語」を身につけてみませんか？～

群馬県には多くの外国人が暮らしています。

皆さんは、仕事や日常生活、活動等で、外国人に何かを伝えようとするとき「何語で話せばいいのかな…」「日本語で伝わるかな…」と不安になることはないでしょうか。

そんなとき、ぜひ「やさしい日本語」で話してみてください。

日時：2018年2月25日（日）
13:30～16:00（受付 13:15～）

場所：館林市 多々良公民館 視聴覚室
（館林市西高根町 48-2）

講師：遠藤 知佐 氏（公益財団法人 兵庫県国際交流協会）



対象：仕事や日常生活、活動等で外国人と接する機会がある方
やさしい日本語に興味のある方

参加費：無料

申し込み：電話、FAX、E-mail にて日本国際社会事業団までお申し込み下さい
※当日参加も可能ですが、資料準備のため、事前申し込みにご協力をお願い致します。

「やさしい日本語」って??

普段の日本語よりも、外国人にとって分かりやすくした日本語のことです。

本講座ではワークショップを通して、「やさしい日本語」で外国人とコミュニケーションをするためのコツを学んだり、情報をわかりやすく提供できるようになるための練習をしていきます。

申し込み・お問い合わせ

社会福祉法人 日本国際社会事業団（ISSJ） 担当：近藤

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F

Tel: 03-5840-5711（平日 10:00～18:00）

Fax: 03-3868-0415 E-mail: issj@issj.org

主催：社会福祉法人 日本国際社会事業団

協力：館林市国際交流協会

* この講座は、文化庁委託による「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の一環として実施しています。



FAX: 03-3868-0415

「やさしい日本語」講座 参加申込書（FAX 用）

ふりがな 氏名	
連絡先 (電話 又は Email)	
ご所属	
参加人数 (※)	人
備考	

※まとめてのお申し込みが可能です。

まとめてお申し込みの場合は、代表者の氏名等をご記入の上、
「参加数」欄に参加希望総数をお書きください。

<備考>

- * E-mail でのお申し込みの場合は、上記内容を本文にご記載下さい。
- * 個人情報、本講座の目的以外には使用しません。

申し込み・お問い合わせ
社会福祉法人 日本国際社会事業団 (ISSJ) 担当：近藤
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F
Tel: 03-5840-5711 (平日 10:00~18:00)
Fax: 03-3868-0415 E-mail: issj@issj.org

多文化共生ワークショップ①

ムスリムの暮らして、どんなの？



館林には2つのモスクがあり、多くのイスラム系住民が生活しています。
そうは言っても、「イスラムってなんだか難しそう・・・」「どんな生活をしているかわからない・・・」
そんな漠然とした不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。
手作りのハラール食をいただきながら、隣に暮らすムスリムの日常生活を
のぞいてみませんか？

日時：2018年3月18日（日）
10:00～11:30（受付：9:45～）

場所：館林市 六郷公民館 学習室（2階）
（住所：館林市新宿一丁目4-30）

講師：石川 美絵子（日本国際社会事業団 常務理事）

館林に暮らすムスリム女性の皆さん

参加費：無料（ハラールの軽食付き！）

申し込み：電話、FAX、E-mailにて日本国際社会事業団までお申し込み下さい

※軽食の準備のため、**3月12日**までのお申し込みにご協力ください。



「ハラール」というけれど、何を食べているの？



子どもたちの学校給食
はどうしているの？



お祈りって、
一日何回？

地域に暮らすムスリムの皆さん
から、生活習慣や異国の日本で
の暮らしについて学びます！



【申し込み・お問い合わせ】

社会福祉法人 日本国際社会事業団（ISSJ） 担当：近藤
〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2 御茶の水K&Kビル3F
Tel: 03-5840-5711（平日10:00～18:00）
Fax: 03-3868-0415 E-mail: issj@issj.org

FAX: 03-3868-0415

ワークショップ「ムスリムの暮らして、どんなの？」

参加申込書（FAX 用）

ふりがな 氏名	
連絡先 (電話 又は Email)	
ご所属	
参加人数 (※)	人
備考	

※まとめてのお申し込みが可能です。

まとめてお申し込みの場合は、代表者の氏名等をご記入の上、
「参加数」欄に参加希望総数をお書きください。

＜備考＞

- * E-mail でのお申し込みの場合は、上記内容を本文にご記載下さい。
- * 個人情報、本講座の目的以外には使用しません。

申し込み・お問い合わせ

社会福祉法人 日本国際社会事業団 (ISSJ) 担当：近藤
 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F
 Tel: 03-5840-5711 (平日 10:00~18:00)
 Fax: 03-3868-0415 E-mail: issj@issj.org